

都市再生整備計画(第2回変更)

み ほ にいはるしゅうへん ち く
三保・新治周辺地区

か な がわけん よこ はまし
神奈川県 横浜市

平成27年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	三保・新治周辺地区	面積	657 ha
計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度				

目標

横浜市の緑の七大拠点の一つ、「三保・新治地区」と梅田川とを結ぶ水と緑のネットワークの構築を目指して、地区内の緑地や水辺、農地、歴史的建造物等の地域資源や水辺の楽校プロジェクト等の資産を最大限に活用しながら、市民と協働して里山の自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するための里山空間を保全・創造することで、地域の環境アメニティの向上、レクリエーションの場の創出を図ることで、地域の活性化を促進する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

三保・新治地区は、駅から近く、利便性の高い区域での住宅開発が進んでいる一方、横浜の原風景の一つである農と里山の景観が残されている地区です。地区内には市内でも最大級の大規模な緑地があり、横浜市水と緑の基本計画において「緑の7大拠点」に位置づけるとともに、地区の中央を流れる梅田川についても「鶴見川流域水マスタープラン」の中でも骨格となる河川として検討されており、「横浜市都市計画マスタープラン・緑区プラン」でも、これらを水と緑の貴重な環境資源として位置づけられています。このうち、新治地区では、「北の森構想」に基づいて、緑地や農地を一体的に保全しながら地域住民や地域外の市民が里山の自然環境を楽しみ、体験、学習、交流する場として、生態系に配慮した持続可能な自然循環型環境の整備を行うとともに、拠点施設整備による来訪者の増加や農地の活用等による地域の活性化を目指しており新治里山公園等の整備を行っています。さらに、新治地区にある「旧奥津邸」については、歴史的建造物である長屋門等もあることから横浜市が寄附を受けており、この地区の特徴的な里山景観を構成する地域資源として保全しながら整備を行い、これまでイベント等の利用を通じて市民利用の拠点として活用しているところです。また、古くからある若葉台団地においては少子高齢化が進む中で、高齢者や子育て世代が孤立するのではなく、気軽に交流ができる場所や機会が求められています。しかしながら、若葉台地区センターには、エレベーターがないため、バリアフリー化も十分ではなく、高齢者・障害者には不評となっています。

課題

緑地や農地、河川等が一体となった里山空間の保全・創造と地域の活性化が求められている。市民が自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するための拠点整備が必要。拠点整備やイベント等の開催による来訪者の増加や農地の活用等による地域の活性化が求められている。

将来ビジョン(中長期)

緑区では、まちづくりの方針を明らかにするにあたり、まちの成り立ちや構造などをふまえて、次の3つの視点でまちづくりを捉えることとしました。
 1. 緑と水のまちづくり 豊かな自然が残る環境は、緑区の大きな特徴であり、魅力でもあります。
 2. 駅周辺のまちづくり JR横浜線各駅の利用圏が、1つのまちのまとまりとなっています。
 3. 生活環境のまちづくり 生活に身近な環境における安全で快適な暮らしの実現を目指します。

緑区「緑と水の回廊」づくりプラン(緑と水のまちづくり方針) 緑豊かな自然環境を区民が連携して支え、次世代に継承していく。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	
							目標年度
樹林地の保全面積	ha	緑地保全制度による指定面積等	緑地保全制度に指定することにより、緑の減少に歯止めをかけ、環境資源を保全する。	127.3	H23	150.0	H28
にいほる里山交流センター(旧奥津邸)の利用者数	人/年	にいほる里山交流センターでのイベントに参加した人数	水と緑の拠点やネットワーク整備により、市民利用が行われていることで、イベントを通じて地域資源の活用が行われている。	2,009	H22	2,209	H28
地区センター利用満足度	%	地区センター利用者による利用満足度	エレベーター設置による利便性を評価する。	満足・まあ満足(0)	H23	満足・まあ満足(50)	H26

都市再生整備計画の整備方針等

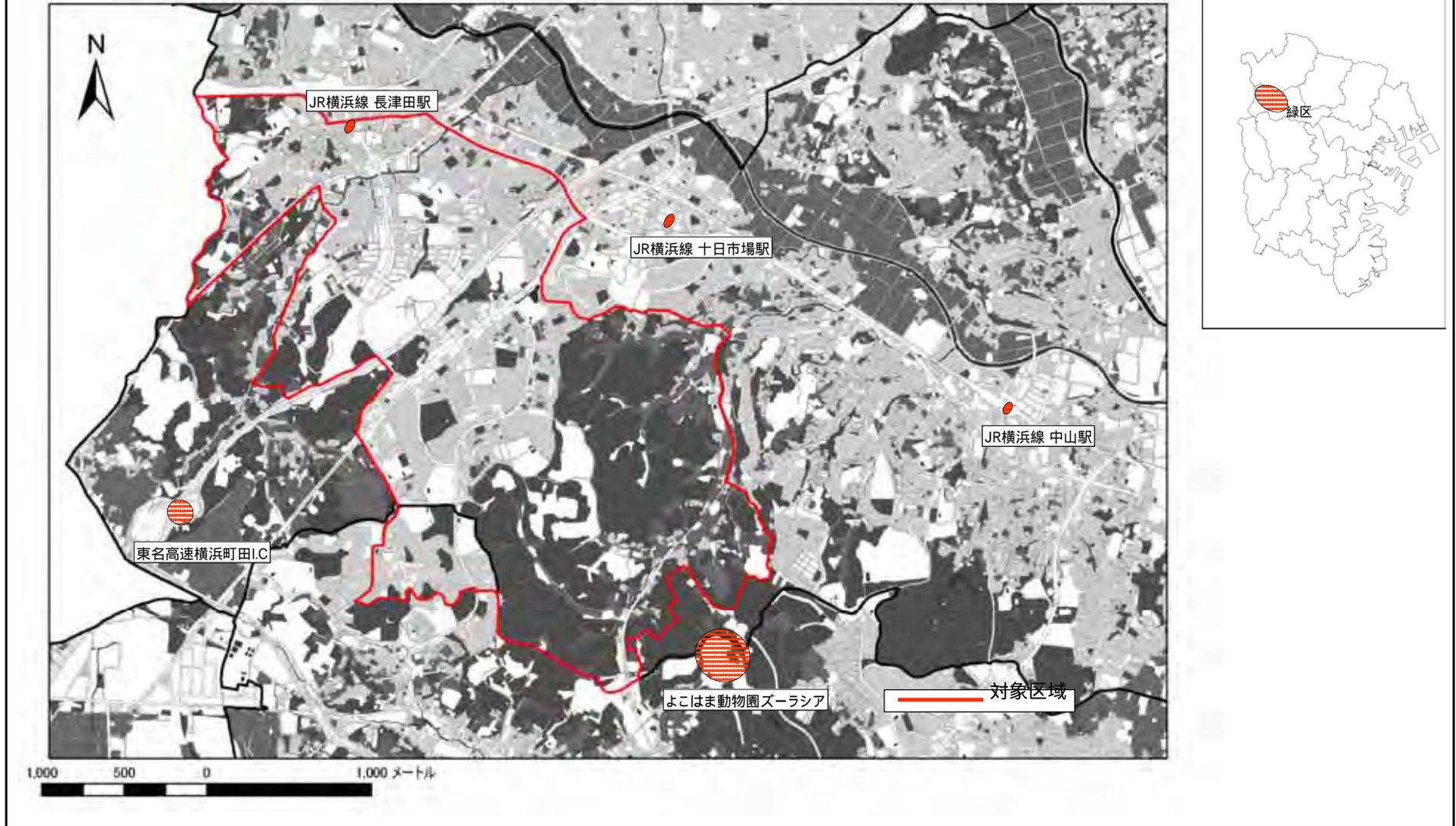
計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・自然的資産を有効に保全・活用する事業 ・自然資源を活かしたまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・三保緑地整備事業 ・新治緑地整備事業 ・長津田緑地整備事業
<ul style="list-style-type: none"> ・市民が里山の自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するとともに地域の活性化にも資する拠点等を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新治里山公園整備事業
<ul style="list-style-type: none"> ・若葉台地区センターにエレベーターを設置し、利用者の利便性を向上し利用促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若葉台地区センターエレベーター設置

その他

都市再生整備計画の区域

<p>三保・新治周辺地区(神奈川県横浜市)</p>	<p>面積 657 ha</p>	<p>区域 横浜市緑区いぶき野、霧が丘一丁目、霧が丘二丁目、霧が丘三丁目、霧が丘四丁目、霧が丘五丁目、霧が丘六丁目、十日市場町、長津田町、長津田六丁目、長津田七丁目、新治町、三保町、旭区若葉台一丁目一部、若葉台二丁目一部、若葉台三丁目一部</p>
---------------------------	------------------	---

計画区域が分かるような図面を添付すること。



三保・新治周辺地区(神奈川県横浜市)整備方針概要図

目標	横浜市の緑の七大拠点の一つ、「三保・新治地区」の水・緑環境を守り、次世代へ引き継ぐため、水・緑資源を保全、育成するとともに、市民が、里山を楽しみ、体験し、学び、里山を舞台とした交流を深める場づくりを進める。	代表的な指標	樹林地の保全面積 (ha)	127.3 (平成23年度)	150.0 (28年度)
			交流センターの利用者数 (人/年)	2,009 (平成22年度)	2,209 (28年度)
			地区センター利用満足度 (%)	0 (平成23年度)	50 (26年度)

